

熱中症対策売り上げ急増

体を冷やすグッズ、エアコン好調

うだるような暑さが続く中、県内の夏物商戦が活気を帯びている。最高気温が35度以上の猛暑日を各地で記録した16日以降、熱中症対策グッズやエアコン、ビアガーデンのチケットなどが一気に売れ出した。20日に梅雨が明け、いよいよ夏本番。小売店は真夏のさらなる販売増に期待を寄せる。
(松浦健司)

夏商戦本格化

首に巻くネックリングの売り場＝岐阜市長住町、岐阜ロフト



ビアガーデン、週末を中心に満席

岐阜ロフト(岐阜市)は冷感材の売り上げが急激に伸びた。16、19日の4日間で、首に巻いて体を冷やすネックリングが先週の2倍、首筋や手首に塗るタイプの冷感材が3倍売れた。気温の上昇で汗や匂いが気になる季節となり、女性に人気という。

夏の定番商品となった手持ち扇風機と晴雨兼用の傘も売り上げを伸ばしている。担当者は「真夏日になると、すぐ使つために、レジでタグを切る傘の購入客が増えた」と話す。

ヤマダデンキ家電住まいの館岐阜本店(同市)は、1週間でエアコンの問い合わせが増えた。電気料金の値上がりなどを受け、省エネ性能の高い家電製品の購入を県が最大4万円補助するキャンペーンの対象商品

が多い。

食品スーパーのバロー(本社多治見市)では17、20日に、アイスクリームの売り上げが前年の同時期と比べて2割増加した。バローホールディングスの広報担当者は「猛暑のため来店客が日中は減少し、涼しくなる夕方に増える。夕方の売り場で品切れが発生しやすいよう気をつけている」と話す。

一方、ホテルグランヴェール岐阜(岐阜市)のビアガーデンは16日以降、来店客数と予約数がいずれも先週の2倍に。新型コロナウイルスの5類移行に伴って今年は客席数を昨年の2倍に増やしたが、週末を中心に満席状態となっている。担当者は「団体の予約が多い」と手応えをつかむ。

8月11日に岐阜市の長良川河畔で開かれる「ぎふ長良川花火大会」の自由席のチケットも今週は、先週の倍近く売れた。担当者は「夏休みに入り、祭りの機運が高まっている」と語る。